



問 小中学校での暑さ対策は？
「総合型体験事業」について問う！

答 みどりのカーテンづくり
大人気のわんぱく体験隊、料理教室

問

町立小・中学校においての暑さ対策について、地球の温暖化により、年を追うごとに夏の暑さが増している。校舎の2階、3階においては室内の温度が30度を超えることがあり、風が入らない日は、窓を開けても温室状態である。

今、子供たちの学力の向上が求められる中、よりよい学習環境を整えるため、新たに冷房設備を整えるか、もしくは、植物による緑のカーテン作りなど何らかの暑さ対策をしていく必要があるのではないか。

教育長

各教室にエアコン設置がされると、5月下旬から10月初旬までの学習環境が改善され、夏期休業中の補充教室の実施における工夫がなされ、学習意欲の継続や学力向上への取り組みがさらに充実することが可能になる。

また、23年度から実施の学習指導要領の前倒しとして本年度から実施されている授業時数の増加に対して、



緑のカーテン作り

夏期休業を短縮することによって解消することが可能になる。

しかし、小・中学校すべての普通教室へのエアコン設置には、相当の費用がかかり、電気代などの維持費もかかるので、全校全室に設置した京都市や宝塚市、高槻市等の情報を得て、よく検討していきたい。

また、緑のカーテン作りによる暑さ対策であるが、各小学校で、朝顔やゴーヤなどつる性植物を植え、一つの教室や特別教室で試みに実施しているところである。次年度は、さらに広げていけるようにしたい。

問

小学生の「総合型体験事業」は、「わんぱく体験隊」と「子ども料理教室」があるが、あまりにも参加希望者が多いため、参加できない子供たちが多くいる。このため、少しでも多くの子どもたちが参加できるように実施回数を増やすことはできないか。

教育長

昨年度は、定員を大幅に上回っていたが、申し込みされた児童は極力受け入れしようとの方針で実施に踏み切った。

しかし、実施したなかで、やはり人員が大幅に増えたことから隅々まで目がいきわたらず、こちら側の目標とする内容的レベルに達していないという質的な低下もみられた。

こうした反省点を踏まえ21年度においては定員内で実施すべきであるとの結論に至った。
したがって、申し込み者の中から抽選という方法を選択した。

今年度は、わんぱく体験隊を6回、子ども料理教室を7回開催することで計画している。

希望する多くの児童を受け入れるため、同一内容での実施回数を増やすことについては、バス移動における定員の問題や、毎回10名程度のボランティアスタッフの確保の問題がある。

また、十分な体制がとれていなければ事故等の問題も懸念される。

こうした条件面での問題があるので今後十分に検討を行い判断していきたい。



わんぱく体験隊